

例会「牛久沼・稲荷川岸边ウオーク」報告

開催日：2023年6月7日(水) 集合場所：JR常磐線牛久駅西口
集合時間：9時00分～9時15分 開会式：9時15分～9時30分 終了後スタート
コース・距離：牛久駅→明治天皇牛久行在所→得月院→牛久城跡地→牛久沼木道→
住井すゑ文学館→雲魚亭→河童の碑→観光アヤメ園→稲荷川外堤(両側)
→牛久駅 12km
ゴール時間：13時15分 参加者：21名(会員19名) 天候：晴

ウオーキング状況等

昨年7月の例会「水戸街道(取手～荒川沖)」で市中心部を、先週の例会「新緑の牛久大仏」で市東部を歩きました。今回は「牛久沼・稲荷川岸边」の市西部を歩く例会です。牛久城跡、日本画家小川芋銭・作家住井すゑが創作活動した歴史と文化に富む牛久沼周辺歩きで、県内外から多くのウオーキング団体がこの地で例会を開催しています。コースはいろいろありますが、オーソドックスな牛久駅を発着するものにし、アヤメの咲く時期に合わせました。あまりにもポピュラーなコースなので、どのくらいの参加者がいるのか心配しつつ当日の朝を迎えると、、、

思った以上の参加者があり、スタッフ一同一安心。早速、大雨による一部コースの変更を伝え、水戸街道を南に向かって歩き出す。牛久宿本陣跡を過ぎて得月院へ。沼を愛し、沼の風土を描き続け、沼のほとりにて生涯を終えた小川芋銭の墓があるところ。そしてカップの里散策コースに足を踏み入ると、牛久城跡(1550年築城、1623年廃城)が眼前に。こんもりとした山林を下ると有名なかつぱの小径がお出迎え。ところが、先週の大雨で木道は通行禁止。コース変更して、最初に昨年完成した住井すゑ文学館、次に芋銭のアトリエ兼居室の雲魚亭、河童の碑などで足を止めながら、木道以外は通行可能な牛久沼畔へ。

牛久沼に沿って観光アヤメ園に向かう。満開のアヤメを見ながらの昼食タイム。三日月橋を渡って、桜の名所稲荷川外堤を上流方向に進む。桜は見られませんが、遠景の筑波山を楽しみながら種々会話に花が咲く。大雨の影響で外堤と稲荷川の水田は殆ど水没状態だが、幸い木道以外は歩行に差し支えなくほっとする。勿論、農家の人は大変だと心配・同情の話も忘れない。折り返しの刈谷橋に架かる道路で道路に水没した車がレッカー車で運ばれるのを昨日の下見で見た。帰りは反対側の岸边を歩いて三日月橋まで戻り、一般道を通って牛久駅に着きました。

牛久市境界の一連の例会を通して、牛久市の良さを実感する歩きになったのではないのでしょうか。特に日本画、農民文学作家の二人の著名人が一生涯の活動拠点にした牛久沼周辺の名所旧跡等は大変興味を深く、手賀沼が大正浪漫ウオークなら、牛久沼は何という名のウオークが相応しいだろうと考えさせられました。同時に、この大雨で農家をはじめとする地元の方々が大変な思いをしているのも分かりました。一刻も早く、元の状態に戻れることを願う次第です。

余談ながら、「芋が買えるだけの銭があればいい」という名に芋銭の人間哲学(老荘思想^注)の影響)が込められているそうです。(戸田)

注) 儒家の礼や徳を人為的なものとして否定し、不自然で作為的な行いをせず、自然体でいること(無為自然)でこの世が治まるということを説いた思想です。